

Z会東大進学教室

高1 難関大英語 S

高1 難関大英語



1章 関係詞

要点

■ 確認問題 1

解答

彼女は私に住所を教えてくれ、それを私は1枚の紙切れに書き留めた。

■ 確認問題 2

解答

The woman who I thought was your aunt proved

■ 確認問題 3

解答

私は何も言わなかったが、そのことが彼女を不快にさせた。

■ 確認問題 4

解答

The child and his dog that were crossing the bridge were run over by a dump truck.

■ 確認問題 5

解答

What surprises us is how he collects the cards.

■ 確認問題 6

解答

この書類で証明されているように、その犯罪を犯したのはマイクだ。

■ 確認問題 7

解答

We moved to New York, where we lived for seven years.

■ 確認問題 8

解答

Johnson gained what support he needed.

■ 確認問題 9

解答

たとえ起源がどのようなものでも、バレンタインデーには長くロマンティックな歴史がある。

問題

【1】

解答

- (1) ウ (2) オ (3) ア (4) イ (5) エ

解説

- (1) (私の父は彼の家から約1マイルのところにある事務所に勤めている。) [関係代名詞 which の主格 —— 人ではなく物を先行詞にとる。]
- (2) (会議で彼が言ったことが理解できなくて残念だった。) [「～のこと」の意味で先行詞をその中に含む関係代名詞 what の目的格。]
- (3) (これは私が合衆国で買った地図書です。) [関係代名詞 that の目的格 —— 人、物などを先行詞にとる。]
- (4) (こちらの女の子の妹さんはあなたと同じクラスにいます。) [関係代名詞 who の所有格 —— 人を先行詞にとる。]
- (5) (彼は私たちが教わっていない先生の1人だ。) [関係代名詞 who の目的格 —— 人を先行詞にとる。]

【2】

解答

- (1) whose (2) whose roof ; roof of which (3) on which
(4) at [in] which (5) that [which] (6) that [which]
(7) that (8) that (9) that [who] (10) what
(11) what (12) for which (13) both of whom (14) which

解説

- (1) 関係代名詞 whose ○ whose native language = their native language
- (2) whose roof = the roof of which [「whose + 無冠詞名詞」 「the + 名詞 + of which」の語順をとるのが一般的で「of which + 名詞」(この場合, of which the roof) の語順の頻度は低い。]
- (3) 関係代名詞 which は前置詞の目的語として前置詞の後に置くことができるが、前置詞を関係代名詞と離して文の後方に置く形をとるものもあり、その形では that も用いることができる。 [= The chair which [that] I was sitting on]
- (4) (3) と同様。 [= the restaurant which [that] we had dinner at [in]]
- (5) 「唯一」の意味の修飾語が先行詞を修飾している場合は主に that を用いる。
- (6) (5) と同様に最上級は「唯一」の意味が含まれるので主に that を用いる。
- (7) 前に who, which などの疑問詞がある場合は that を用いる。
- (8) 先行詞が「人+物 [こと]」の場合は that を用いる。
- (9) 先行詞が「全」または「無」の意味の修飾語を伴う場合は主に that を用いる。
- (10) 先行詞をその中に含む関係代名詞 what。
○ what I am 「現在の私」

- (11) what が「…するすべてのもの」 [= all that ; anything that] の意味を含む例。
- (12) 「前置詞 + 関係代名詞」の非制限用法。 [= , which he paid one million yen for.] [非制限用法のため that での代用は不可。]
- (13) both of whom = both of them と考えると関係代名詞の目的格が来る。
- (14) 前節の一部 (he had met her once) を指す非制限用法の which。

【3】

解答

- (1) My father is *what* we call a self-made man.
- (2) He is clever, and *what* is more, diligent.
- (3) Leaves are to the plant *what* lungs are to the animal.

解説

- (1) ～ (3) と関係詞 what を用いる重要表現。
- (1) what we [you ; they] call C = what is called C 「いわゆる C」
cf. what S call C (S が C と呼ぶようなもの)
- (2) what is + 比較級 「さらに…なことに」
- (3) A is to B what C is to D 「A と B の関係は C と D の関係に等しい」

【4】

解答

- (1) who (2) what (3) why (4) how (5) when
(6) where (7) where (8) which (9) which

解説

- (1) (合格すると思った友達は落ちた。) 2 つに切り離して考えると, My friend has failed. I thought *he* would pass. [*he* は主語なので関係詞は who.]
- (2) (この町はもはや昔の町 [昔そうだったような町] ではない。) [先行詞をその中に含む関係代名詞 what (what it used to be は文の補語).]
○ used to be [現在との対比で用いる過去の状態。]
- (3) (彼女が泣いている理由ははっきりしない。) 関係副詞 why —— 「理由」を表す先行詞 the reason につく。[why が省略されることもあれば, 先行詞が省略されることもある。]
- (4) (その難しい問題をどのように解いたのか教えて下さい。) 関係副詞 how —— 「方法」を表し, その先行詞 the way と並べて用いるのは通例不可。
- (5) (あなたが間違っていたと気づく時がきつと来るでしょう。) 関係副詞 when —— 「時」を表す先行詞につく。[when が省略されることもあれば, 先行詞が省略されることもある。]
- (6) (その事故が起こった場所を知っていますか。) 関係副詞 where —— 「場所」を表す先行詞につく。[先行詞が省略される場合もある。]
- (7) (日本語と英語の違う根本的な点 [所] を覚えておかななくてはならない。) [関係副詞 where は point ; case などの広い意味で場所と考えられる語も先行詞にとる。]

- (8) (私にはパリで過ごした数年間の楽しい思い出がたくさんある。)[この場合の spent は他動詞で years を目的語にとるので関係代名詞にする。]
- (9) (私たちは熱海に行った。そこは温泉で有名である。)[この場合、節の主語になるので関係副詞は不可。]

【5】

解答

- (1) 人は皆、善なるもの真実なるもの何でも賞賛する。
- (2) ここに数冊の本がある。どれでも好きなものを選んでよい。
- (3) 数学の問題を解いたり数学のテストを受けたりしなければならない時はいつでも大変な不安に陥る生徒がいる。

解説

- (1) whatever = anything that 名詞節を導く複合関係代名詞。先行詞を含む。
- (2) whichever = any ~ that 名詞節を導く複合関係代名詞。先行詞を含む。
- (3) whenever = at any time when 副詞節を導く複合関係副詞。

【6】

解答・解説

- (1) ウ 各単語の発音は以下の通り。
 ア「ブラウンはかつてパリに住んでいた。」used / jú:st /
 イ「すぐにアメリカの食べ物に慣れますよ。」used / jú:st /
 ・ get used to ~ 「~に慣れる」アの used to do 「かつて…した」との違いに注意。
 ウ「電話を使ってもいいですか。」use / jú:z /
 エ「ビルはその道具の正しい使い方を学んだ。」use / jú:s / ここでは use は名詞「使い方、使用」。動詞の use と発音が異なる。
- (2) 「全訳」下線部(2)参照。
 (2)
 ・ it is certain that ~ 「~ということは確かだ」
 ・ will have *done* [未来完了]
 ・ galaxy 「銀河」[our own galaxy = the Galaxy 「銀河系」]
 ・ others = other galaxies
- (3) 我々がこの地球を逃れて、広大な宇宙の中のどこか別の場所に住むこと。
- (4) 「解答例」
 (1) 100 億年 (2) 水素 (燃料) (3) ヘリウム (4) 炭素 (5) 膨張
 (6) 熱 (7) 地球 (8) 現実的な [実現可能な] (9) 生存 (10) 宇宙船
 (11) 植民 (地化) (12) 論理的な [理論的に筋の通った] (13) 小惑星
 (14) 供給
- (5) ウ

インタビュアー : 予言者たちは、何世紀にも渡って世界の終末を予測してきています。どのような類の自然の(人為的でない)終末をこの惑星が迎えるとあなたは予測しますか。それは巨大な氷の立方体になるのでしょうか、それとも燃え尽きてしまうのでしょうか。

アシモフ : 避けることのできない1つの自然な終わり方は、もちろん太陽の死である。太陽はゆっくりとその水素燃料を使い果たし、今から約100億年後には地球を破壊してしまうであろう。すなわち水素が尽きた時、残されたヘリウムが燃焼して炭素に変わる。それに対する反応として太陽は膨張し、ずっと巨大な表面を持ち、その結果、熱の総量は今よりはるかに大きなものとなり、地球は焼かれてしまうのである。

インタビュアー : それでは、どんな希望が残されていますか。それに対して我々は何ができるのですか。我々はこの地球を逃れて、広大な宇宙の中でどこか別の場所に住むことができますか。

アシモフ : (2)太陽の死の前に、我々がこの銀河系やもしかすると他の銀河にまで広がっていることはほぼ間違いない。最も実際的な方法は、生存に必要なものをすべてそろえた巨大な宇宙船を建造し、それらを特別に目的地を定めることなく送り出すことである。時には、それらのうちの1つは、植民地化しうる星に出会うこともあるだろう。

また同じことを行うのに最も論理的な方法は、小惑星を改造することのようである。すなわち、それらの小惑星に洞穴を掘り抜き、そこに不足するあらゆるものを供給することである。確かに100億年の間には、宇宙空間をそのような宇宙船でいっぱいにするのに十分な時間があり、この惑星(地球)の終末の前に、我々は宇宙空間におそらく何百万という星を植民地化してしまっているだろう。そして同じことをしている他の知的生物に出会うこともほぼ確実であろう。

注

- ℓ. 1 ○ for centuries 「何世紀もの間、何世紀にも渡って」
- ℓ. 2 ○ sort 「種類」 (= kind)
 - turn into [to] ~ 「(変化して) ~になる」
- ℓ. 3 ○ burn up 「燃え尽きる」
- ℓ. 4 ○ that [one natural end を先行詞とする関係代名詞]
 - unavoidable 「不可避の」 < avoid ~ 「~を避ける」
- ℓ. 5 ○ use up ~ [~ up] 「~を使い尽くす」 (= exhaust ~)
 - in + 時間 「~後に、~以内に」
 - billion 「10億」 [形容詞的に用いられる場合は単数形になる。]
 - c.f. billions of dollars (何十億ドル)
 - from now 「今から」
- ℓ. 6 ○ When the hydrogen has been used up [時を表す副詞節では未来完了の内容は現

在完了で代用する。]

- ℓ. 7 ○ that [the helium を先行詞とする関係代名詞]
 - carbon 「炭素」
- ℓ. 8 ○ much [比較級を強める副詞]
 - surface 「① 表面, 外面 ② 外見, うわべ, 見かけ」
 - so 「よって, それで, その結果」[接続副詞]
- ℓ. 9 ○ fry 「揚げられる, いためられる」
- ℓ. 10 ○ could [「能力」を表し can より丁寧・控えめな言い方。]
- ℓ. 11 ○ somewhere else 「どこか他に」
 - vastness 「広大さ, 莫大なこと」 < vast
- ℓ. 14 ○ practical 「①現実的な, 実際のな ②実用的な ③実質上の」
- ℓ. 20 ○ whatever … 「…するものは何でも」 (= anything that)
 - be short of ~ 「～が不足している」
 - certainly = it is certain that
 - have plenty of ~ to do 「…するのに十分な～がある」
- ℓ. 22 ○ we shall have colonized probably millions of worlds all over the universe [未来完了]
 - millions of ~ 「何百万の～」
 - all over the universe 「宇宙全体」
- ℓ. 23 ○ intelligence 「①知能, 理解力 ②情報 ③知性 [理性] 的存在」
 - doing the same thing [other intelligences を修飾する形容詞句。]

2章 比較

要点

■ 確認問題 1

解答

There were fewer than thirty students present.

■ 確認問題 2

解答

You may as well begin to prepare your lessons.

■ 確認問題 3

解答

その地下鉄は昼間は安全だが、夜間は昼間ほど安全ではない。

■ 確認問題 4

解答

No sooner had he gone to bed than he fell asleep.

■ 確認問題 5

解答

彼は非常に印象的に見える書類キャビネットを持っていた。

■ 確認問題 6

解答

I am not in the least concerned about the results.

問題

【1】

解答・解説

- (1) as [so] ; as
 - not as [so] + 原級 + as ~ 「～ほど…ではない」
- (2) as many
 - as many as + 数詞 「(数に対して) ～もの多くの」
- (3) as ; as possible
 - as ~ as possible 「できるだけ～」 (= as ~ as + S + can [could])
- (4) any
 - as ~ as any (…) 「どれ(誰)にも劣らず～」
- (5) half ; large ; as, half ; size
 - X times as + 原級 + as ~ 「～のX倍…だ」
 - X times the size of ~ 「～のX倍の大きさだ」
- (6) so much as
 - not so much as … 「…さえしない」 (= not even)
- (7) not so much ; as
 - not so much ~ as … 「～よりはむしろ…」
 - [= more … than ~, … rather than ~]
 - [= He is more a man of diligence than a genius.]
 - [= He is a man of diligence rather than a genius.]
- (8) as well as ; am, Not ; you but ; I am
 - ~ as well as … 「…と同様に～も, …ばかりでなく～も」 (= not only … but also ~) [これらの語句が主語になった場合の述語動詞の人称・数は, 強調される「～の部分」に一致する。]

【2】

解答・解説

- (1) by, to
 - by 「[程度・差]を表す前置詞」
 - junior to [ラテン語系の比較級は to を伴う。] (↔ senior to)
- (2) prefer ; to
 - prefer ~ to … 「…より～を好む」 [~, …の部分が to 不定詞の場合は「…より」の意味の to の代わりに rather than を用いる。]
 - cf. I prefer to wait rather than (to) go at once. (私はすぐ行くより待ちたい。)
- (3) hotter and hotter
 - 比較級 and 比較級 「ますます, だんだん…」

- (4) less ; than
 ○ less ~ than … 「…ほど～ではない」〔劣勢比較〕〔not as ~ as … の形に変えて考えるとよい。〕
- (5) the shorter of 〔「2者のうちで一方がより…だ」という場合には、the + 比較級 + of the two ~ の形をとる。〕
- (6) more ; than 〔同じ人〔物〕について形容詞と形容詞を比較する時は、-er 変化する形容詞でも more 原級 than 原級 の形にする。〕
- (7) still 〔much〕 less
 ○ 肯定文, much 〔still〕 more 「まして…, なおさら…」
 ○ 否定文, much 〔still〕 less 「まして…でない, なおさら…でない」

【3】

解答・解説

- (1) The higher we go up, the colder it becomes.
 ○ the + 比較級, the + 比較級 「～すればするほどますます…」
- (2) I liked the boy all the better for his honesty.
 ○ all the + 比較級 + for 〔because〕 … 「…のためにそれだけいっそう～」
- (3) The man was none the happier because he was rich.
 ○ none the + 比較級 + for 〔because〕 … 「…にもかかわらず少しもより～ではない」
- (4) He knows better than to break his promise.
 ○ know better than to *do* 「…するほど愚かではない」〔than の後が原形動詞ではなく to 不定詞であることに注意。〕

【4】

解答・解説

- (1) only 「彼は年間に5万ドルしか稼がない。」
 ○ no more than ~ 「～しか」
- (2) at most 「彼の稼ぎは年間でせいぜい5万ドル〔5万ドルかそれ以下〕だ。」
 ○ not more than ~ 「多くて～」
- (3) as much as 「彼は年間に5万ドルも稼ぐ。」
 ○ no less than ~ 「～もの」
- (4) at least 「彼は年間に少なくとも5万ドル〔5万ドルかそれ以上〕は稼ぐ。」
 ○ not less than ~ 「少なくとも～」

【5】

解答

- (1) 彼は花を愛し、花を育てるのがうれしいのだ。自分の育てた花を女の子たちに与えることで彼はより幸せになる。彼女たちはその美しいプレゼントを喜ぶ。そしてそのような美しい贈り物を与えてくれた人の美しい心でよりいっそう幸せになるのである。

注

- he is happy growing them
- them = flowers
- be delighted with ~ 「～で喜ぶ」 cf. delight ... with ~
- make O C 「OをCの状態にする〔make は使役動詞〕〔Oに当たるのは they = the girls である。〕
- all the 比較級 for [because] ~ 「～なのでそれだけいっそう…」
- them = the girls

解答

(2) 専業主婦の母親の子供たちが不幸ではないのと同様に、働いている母親の子供たちも不幸ではない。子供たちの幸福に影響を与える主な要因は、両親の関係である。

注

- A is no more ~ than B (is) 「Aが～でないのはBが～でないのと同様である、Bと同様にAは～でない」
- those = children [比較の対象を明確にする]
- full-time 「全時間 (従事) の, 常勤の」 (↔ part-time 「パートタイムの, 非常勤の」)
- factor 「① 要因, 要素 ② 因子」
- affect ~ 「～に影響を及ぼす」

解答

(3) 私は多くの英文を暗記した。よって私は英作文には2, 3の誤りしかしなかった。

注

- sentence 「① 文 ② 宣告, 判決」
- no more than ~ 「～に過ぎない, ～しか」 (= only)
cf. not more than ~ (多くて~, せいぜい~) (= at most)
- composition 「① 構成 ② 創作 ③ 作品 ④ 作文」

解答

(4) ニューギニアには700もの違った言葉があり、ある程度、それぞれの言葉は異なった文化を表している。

注

- no less than ~ 「～も」 (= as many as ~)
cf. not less than ~ (少なくとも~) (= at least)
- seven hundred 「形容詞として名詞を修飾する場合や、単に数字を表す場合は、hundreds と複数形にしない。』
- separate *adj.* 「① 離れた, 別個の ② 個々の」

【6】

解答

- (1) ④ (2) ① (3) ③ (4) ①

全訳

今日では人々が仕事から離れて過ごす時間が今までなかったほど多くなっている。科学技術の発展で、大部分の人々が労働時間を着実に短縮できるようになった。しかも、人々が長生きしているという事実も、仕事をしないで費やす時間数を増やす原因となってきた。その結果、多くの人々が予想していたよりも多い余暇に適応しなければならなくなってきた。また、この新たに生まれた余暇はさまざまな問題も生み出してきた。

歴史的に見れば、仕事に重きが置かれ、しかも現在の考え方も依然として初期のこの考え方の影響を反映している。今日でさえ、余暇は主として、仕事量を増やし仕事の質を高めるのに必要なエネルギーと力を取り戻すのに用いられるべきだと思っている人が依然として多いのである。それゆえ、余暇は目的に対する手段と見なされてきた。

生産能力が向上し、生活基準も高くなるにつれて、仕事に対する強壯剤以上のものと余暇を見なす新しい考えが登場している。今では余暇はますます多くの人々によって、現代生活の重要な一面であると思なされている。彼らは余暇の時間を利用することは、それ自体が満足のいく経験であるべきだと考えている。

余暇と仕事に対する考え方は変わりつつある。仕事はますます機械化しているということになる。このおかげで、特に若い世代の人たちの中で、仕事中心から余暇と家庭中心へと行動の重要性が変化する結果となった。しかしながら、この新しい考え方は伝統的な考え方に完全に取って代わっているわけではないので、自分たちの人生で余暇がどのような役割を果たすべきかという問題に直面している人も多いのである。自由に使える余分な時間が増えたことに対して罪悪感を持ち、余暇を避けようとこれまで以上に働く人もいる一方で、仕事と似た余暇活動を熱心に求める人もいる。労働時間が短縮されているので、仕事と遊びの間にもっと意味のあるバランスを取る必要がある。

注

- ℓ. 2 ○ technological 「科学技術の」
 ℓ. 4 ○ as a result 「その結果」
 ℓ. 6 ○ historically 「歴史的に」
 ○ emphasis 「強調」
 ○ current 「現在の」
 ○ attitude 「①態度, ②考え方」
 ○ reflect ～ 「①～を映す, ②～を反射する, ③～を反映する」
 ℓ. 8 ○ chiefly 「主に」
 ℓ. 9 ○ means 「①手段, ②財産」 < mean 「中間の」 ※本文中に a means とあることからわかるが、means は単数形ということに注意。

※ mean にはいろいろな意味があるので、以下に記載しておく。

mean ～ 「①～を意味する, ②《to do を伴って》…するつもりである, ③～を言う」

mean *adj.* 「①卑劣な, ②意地の悪い, ③けちな, ④中間の」

- ℓ. 10 ○ along with ～ 「～と一緒に」
 - efficiency 「能率」
- ℓ. 12 ○ contemporary 「同時代の」
- ℓ. 14 ○ mechanization 「機械化」
- ℓ. 16 ○ lead to ～ 「～を導く」
 - -centered 「～中心の」
- ℓ. 17 ○ generation 「世代」
- ℓ. 18 ○ not entirely … : 部分否定で「まったく…というわけではない」。
 - entirely 「完全に, まったく」
- ℓ. 19 ○ guilty 「有罪の」
- ℓ. 20 ○ seek ～ 「～を求める」
 - pursue ～ 「～を追い求める」
- ℓ. 21 ○ resemble ～ 「～に似ている」

3章 仮定法

要点

■ 確認問題 1

解答

もし彼が正直な人間だとわかっていれば、喜んでそのお金を貸すだろうに。

■ 確認問題 2

解答

「ジャックはパーティーにいた?」「いや、いたとは思わないな。いたら会っていただろうし。」

■ 確認問題 3

解答

I suggested that Ken give up golf.

■ 確認問題 4

解答

もし彼が話すのを聞けば、彼を重要人物だと思うだろう。

■ 確認問題 5

解答

給料がもっと高ければ、ジェイクはその仕事に就くことを考えたかもしれなかったろう。

■ 確認問題 6

解答

日本人ならそのようには振る舞わなかっただろう。

■ 確認問題 7

解答

彼は天文学について何も知らないけれど、まるで知っているかのように話す。

問題

【1】

解答・解説

- (1) ちょっとの間エンジンを見ていたら、何が欠けているかわかっただろうに。〔仮定法過去完了〕
- for a moment 「しばらく、ちょっとの間」
 - see ～ 「～がわかる、～を理解する」
 - what was missing 「紛失しているもの」 missing は「紛失している、あるべき所がない」の意味。
- (2) もし私が助けを求めて叫ばなかったら、彼らは無理やりその家に押し入っただろう。〔仮定法過去完了〕
- force *one's* way into ～ 「無理やり～に進む、～に押し入る」
 - call for ～ 「～を求めて叫ぶ」
- (3) かやの中に寝ていれば、そう頻繁には刺されないだろうに。〔仮定法過去〕
- mosquito net 「かや」 cf. mosquito (蚊)
 - bitten : bite の過去分詞 (bite - bit - bitten)
- (4) 余命6カ月しかないとわかれば、その6カ月をどのように過ごしますか。〔仮定法過去〕
- only six months to live : to live は only six months を修飾する形容詞用法の不定詞。
 - spend ～ 「～(時間・お金など)を費やす、使う」
- (5) 雨さえやんでくれればいいのだが。〔「かなわない願望」を表す If only を用いた問題〕
- If only …! 「…でありさえすればいいのになあ」
 - stop 「(雨・風などが) やむ、止まる」

【2】

解答・解説

- (1) had 〔仮定法過去。「実際にはその本を持っていないので、君に貸してあげることはできない」という意味を含む。〕
- (2) want ; lose weight 〔仮定法ではなく、単なる条件文である。「…したい」は want to do, 「減量する」は lose weight。〕
- (3) If ; were you 〔仮定法過去。if I were you は「助言・忠告」などを表すこともある。change *one's* mind は「自分の考えを変える」。〕
- (4) would [might] be 〔仮定法過去。「実際には休暇をとっていないので、今長崎を旅行していない」という意味を含む。仮定法過去の帰結節は「助動詞の過去形+動詞の原形」を用いる。〕
- (5) had been in 〔仮定法過去完了。「実際には書類がきちんとしていなかったもので、すぐには帰れなかった」ということ。仮定法過去完了の条件節には過去完了形を用いる。「きちんとして、整って」は in order。〕

- (6) would have waited [仮定法過去完了。条件節，帰結節とも過去のことであるので，帰結節は「助動詞の過去形 + have + 動詞の過去分詞」になる。]
- (7) would not be [仮定法過去完了。条件節が過去のことであり，帰結節は現在のことをいっている。このような仮定法過去完了では，条件節内には過去完了形を，帰結節には「助動詞の過去形 + 動詞の原形（仮定法過去の帰結節の形式）」を用いる。]

【3】

解答・解説

- (1) (C) 「もう少し早く家を出ていたら，今頃その電車に乗っているだろうに。」
 ○ leave ~ 「~（ある場所）を離れる，出る」[ここでの leave は他動詞]
 ○ a little 「少し」
- (2) (I) 「僕がすぐに出発することを君が許可してくれたら，彼女の救助に間に合うでしょう。」
 ○ allow ~ to do 「~が…することを許可する」
 ○ at once 「すぐに」
 ○ be in time for ~ 「~の時間に間に合う」
 ○ rescue 「救助，救援，救出」
- (3) (A) 「彼の家にもう少し長い時間いたとしたら，彼に会うことができただろうに。」
 ○ stay at ~ 「~にとどまる，滞在する」
- (4) (E) 「もし私が彼女に会うのを彼が妨げなければ，彼女にその知らせを伝えるに行くのに。」
 ○ prevent ~ from …ing 「~が…するのを妨げる，~が…しないようにする」
 ○ go and tell = go to tell
- (5) (G) 「もし彼女が亡くなっていなかったら，君は彼女と結婚しただろうに。」
 ○ marry ~ 「~と結婚する」(marry は他動詞)
- (6) (H) 「もし彼女が重病であるとすれば，私は急いで帰宅しなければならないだろう。」
 ○ seriously ill 「重病で」[seriously は「重く，ひどく，深刻に」]
 ○ in haste 「急いで，あわてて」
- (7) (D) 「もし暇なら，散歩に出かけませんか。」
 ○ free 「暇で，手が空いて」
- (8) (F) 「もし君が私の立場にいるとすれば，君がどうするのか私は知りたいと思うのだが。」
 ○ be in *one's* place 「~の立場にいて」
 ○ would like to do 「…してみたい，…したいと思う」
- (9) (B) 「もしそれが私にできることであったならば，君を助けてあげたのだが。」
 ○ be in *one's* power 「~にできるだけの，~にできる」
 ○ come to *one's* aid 「~を助ける，~を助けてくれる」

【4】

解答・解説

- (1) ウ「もっと早く出ていれば、時間通りに着けたであろうに。」〔仮定法過去完了の帰結節に当たる部分の動詞の形を選ぶ。〕
- (2) エ「招待されていれば、伺わせていただいたでしょうに。」〔仮定法過去完了。S V (助動詞) が倒置されて、had I been という語順になる。〕
- (3) ア「万ースキーの授業をとることに決めたのなら、私に知らせて下さい。」〔if S should do 「万一Sが…したら」のif節の省略が行われ倒置が起こっている文であることに着目する。〕
- (4) イ「無数の探偵小説がないなら、リラックスするために何をすべきか見当がつかない。」〔仮定法過去。if it were not for ~ (もし~がなかったら) の条件節ifが省略される場合には条件節の主語と動詞(助動詞)の語順に倒置が起こる。〕
- (5) ア「彼は一生懸命に働いた。そうでなかったら失敗していたであろう。」〔otherwise「もしそうでなければ」は仮定法のif節に相当する語である。He worked hard. という過去の事実と反する仮定を行うので、仮定法過去完了。〕
- (6) ウ「部屋の扉を開けておくように彼女は頼んだ。」〔「要求・提案」などを表すthat節では「仮定法現在」または「should + 原形」の形をとる。また仮定法は時制の一致の例外になる点にも注意。〕

【5】

解答・解説

- (1) I would write to her 〔仮定法過去の文であるので、帰結節には「助動詞の過去形+動詞の原形」が入る。「~に手紙を書く」はwrite to ~。〕
- (2) he will get angry 〔仮定法過去ではなく、単なる条件を表す。「怒る」はget angry。「~の話の腰を折る、~の話に割り込む」は他動詞interruptを用いる。〕
- (3) I would be rich now 〔仮定法過去完了であるが、帰結節は現在のことを述べている。したがって、「助動詞の過去形+動詞の原形」になる。〕
- (4) as if [though] she knew where he was 〔「まるで…のように」はas ifまたはas thoughによって表現する。「実際には彼の居場所を知らない」という意味が含まれている。本問では、as if [though]に続く節が主節と同じ時間を表しているので、仮定法過去にすればよい。〕
- (5) I knew her phone number 〔「現在のかなわない願望」を表すには、I wish + 仮定法過去を用いればよい。〕

【6】

解答・解説

- (1) If we had more rain, our crops would grow faster. (もっと雨が降れば、我々の作物がもっと速く育つのだが。) 〔選択肢に目を通すと、had, would, growがある。助動詞の過去形wouldにつながるのは、動詞の原形growであることがわかる。ここでのhadは

動詞の過去形であるので、仮定法過去の文にすればよい。]

- (2) If I had realized the traffic lights were red, I would have stopped. (信号が赤だと気づいていたら停まったのだが。)[まず、選択肢から動詞を拾ってみると、stopped, realized, were がある。さらに、選択肢には have, would がある。ここで、本間は仮定法過去完了の文であることに気づかなければならない。仮定法過去完了の帰結節は「助動詞の過去形 + have + 過去分詞」であるから、would have のつながりができる。これに続く過去分詞は stopped か realized である。次に、the traffic lights とつながりそうなものを考えてみよう。すると、形容詞 red があるので、the traffic lights were red となる。ここでは that は与えられていないが、(that) the traffic lights were red という that 節が realize の目的語に当たる関係になる。realize は「～を悟る、理解する」。あとは内容を考えて、仮定法過去完了にすればよい。]
- (3) I wish I had not spent so much money. (あんなにたくさんのお金を使わなければよかったのになあ。)[選択肢に wish があるので、まず I wish が書き出しとなる。spent, had があるということは、I wish の後には仮定法過去完了が続くということである。]
- (4) He walks as if he were drunk. (彼はまるで酔っ払いのように歩く。)[選択肢には as, if がある。as if … は「あたかも…であるかのように」という意味である。動詞を見ると、were, walks がある。したがって、as if の後には仮定法過去を用いればよい。]
- (5) If John were here, he would know what to do. (ジョンがここにいれば、どうしたらよいかわかるだろう。)[選択肢を見ると、動詞の過去形 were, 助動詞の過去形 would, 動詞の原形 know がある。ここから、仮定法過去の文であることがわかるかどうかポイント。]

【7】

解答・解説

- (1) But for 「車が故障した。それがなかったら、時間に間に合ったのに。」[The car broke down. は過去のことであり。さらに、we would have been in time から、第2文が仮定法過去完了であることがわかる。that は代名詞で、前文の内容を指している。「実際には車が故障したのだが、もし故障しなかったとすれば、間に合ったのに」という意味である。「(~) がなかったら」を1語で表現するには without (~) を、2語で表現するには but for (~) を用いればよい。]
- (2) If only 「彼がタバコを吸わなければいいのに。」[I wish は「かなわない願望」を表すのに使われる。「実際には彼はタバコを吸っている」という意味が含まれている。I wish 同様、「かなわない願望」を表すのは、If only である。ここでは特に「現在のかなわない願望」を言っているので、後続の節には仮定法過去が用いられている。]
- (3) went [It's (about;high) time … は「もう…する時間です、そろそろ…する時間です」という意味。この後に節を置く場合、節内の動詞を仮定法過去、すなわち過去形にする。]
- (4) It is about [high] time [4語で表現する場合には、It is about [high] time を用いる。]
- (5) had ; gone out 「昨日出かけなければよかったのだが。」[文末に yesterday があるため、過去のことを述べていることがわかる。また、文頭には I wish が用いられているので、「過去にかなわなかった願望」を表したいのである。この場合、I wish に続く節は仮定法過去完了になる。]

【8】

A.

解答例

- (1) No, he [she] doesn't.
- (2) It has hardly any atmosphere.
- (3) It has a very thin atmosphere and a severe shortage of water.
- (4) He was a great mathematician.
- (5) He lived in the early nineteenth century.
- (6) He came from Austria.
- (7) He suggested digging very wide ditches in the Sahara, triangular in pattern, and then filling them with petrol or some such substance.
- (8) He suggested building a large mirror to reflect the sun's rays and concentrate them on the surface of Mars, thereby making a vast burning-glass.
- (9) ① For many years, he bombarded it with literature about his plan.
② He sent the government letters about his plan for many years.
- (10) No, he didn't.

解説

- (1) 質問の any life に注意。本文では火星には simple plant life は生息できるかもしれないと言っている。
- (2) 本文ℓ. 6～ℓ. 7 参照。
- (3) 本文ℓ. 8～ℓ. 9 参照。
- (4) 本文では読者が Gauss を知っているという前提で the great mathematician Gauss と the を使っているが、質問の解答としては本文の文脈にとらわれず彼の職業を客観的に述べるのが適当なので a mathematician とするのがよい。
- (5) 本文中で Gauss が提案を行った時期が当てはまるだろう。
- (6) Littrow は Austrian scientist と説明されている。
- (7) なぜこの提案をしたかの理由までを解答すると非常に長くなってしまっているので、とりあえず何をするように言ったかを解答すればよいだろう。
- (8) 本文ℓ. 17～ℓ. 20 参照。
- (9) ②の解答例のように、本文ℓ. 22 の解釈に基づいて平易な語で解答してもよい。
- (10) 本文ℓ. 22 の bombard については注を参照。この語はここでは比喩的な意味で使われている。

B.

解答

- (1) (c) (2) (b) (3) (a) (4) (d) (5) (a) (6) (b)
(7) (b) (8) (d) (9) (d) (10) (c)

解説

- (1) fascinating 「魅惑的な, 魅力的な」
(a) interesting 「面白い, 興味深い」はよいが, frightening 「恐ろしい」が違う。

(b) amusing は笑いを誘ったり人を楽しませたりする「面白い、おかしい」の意味。exciting は「刺激的な、わくわくするような」、(d) amazing 「驚くべき」、annoying 「迷惑な」は両方とも違う。

(2) exist 「存在する」〔live と同義。〕

(b) be は完全自動詞としての意味が exist と同じ「存在する、生存する、ある」。

(a) come in 「入る」、(c) find 「見つける」、(d) go out 「出て行く、外出する」。

(3) obtain 「得る、獲得する」

(b) make 「作る」。(c) buy 「買う、購入する」。文脈によってはこれに置き換えられる obtain の使い方もあるがここでは不適切。(d) send 「送る」。

(4) surface 「表面、外面、地表、うわべ」

(b) inside 「内部、内側」 ↔ (d) outside 「外部、外側」、(a) water 「水」、(c) air 「空気」。

(5) support 「支える」〔物理的、精神的、経済的などの場合に使われる。〕

(a) keep up はいろいろな意味で使われるが、「維持する」〔= maintain〕の意がある。

(b) kill 「殺す」、(c) prevent 「防ぐ」、(d) hold down 「(人や自由を)抑える」。

(6) communicate 「(文通、信号などで)意思を伝える、通信する」

(b) make contact with ～ 「～と接触する、連絡をとる」、(a) get to know 「知り合いになる」、(c) attack 「攻撃する」、(d) reach out to ～ 「～に手を差し伸べる、～を助ける」。

(7) propose, (b) suggest については注を参照。(c) intend 「意図する」、(d) meant < mean 「意味する」

(8) ditch 「どぶ、排水溝」

(d) channel 「溝、水路」、(a) hole 「穴」、(b) foundation 「土台、基礎」、(c) well 「井戸」。

(9) reflect 「反射する」

(d) throw back 「投げ返す → 反射する」、(a) soak up 「吸い込む」、(b) shine 「輝く」、(c) take down 「卸す、下げる」。

(10) concentrate 「集める、1点に集中させる」

(c) bring together 「集める」、(a) spread out 「広げる」、(b) increase 「増える、増やす」、(d) shine on ～ 「～を照らす」。

C.

解答

(1) (c) (2) (d) (3) (b) (4) (d) (5) (d)

解説

(1) 本文ℓ. 2～ℓ. 4 参照。知性ある生命体が宇宙にいる可能性を否定していないが、いると断言もしていない意味合いを読み取ること。(a) 絶対に唯一の生命体と断言しているので×。(b) ほぼ確実に唯一の生命体というのは、他にいるかもしれないという意味合いと矛盾する。(c) 本文の意味合いに一番近い。(d) 宇宙に他にも知性ある生命体がいると断言はしていないので×。

(2) 本文ℓ. 7 に the surface temperature is extremely high とある。

(3) 本文ℓ. 8～ℓ.10 参照。vegetable には動物・鉱物に対して「植物」の意味がある。(c) 本文では動物がいる可能性を完全に否定はしていないが、ほとんど望みが無いといっている

るので意味がずれる。(d) 本文の Martians … have been given up. と矛盾。give up は「あきらめる、放棄する」。

(4) 誰がどこで何をすることを提案したかを把握して判断する。(a), (c) の選択肢は本文中の内容と異なる。(b) は Cros の考え。

(5) 本文最終行参照。(a) 政府が自分のアイディアに目を留めなかった時励まされた, (b) 政府が自分のアイディアに目を留めた時喜んだ, (c) 役人たちが自分の提案に関心を持ったことに驚いた。

全訳

現代の天文学者らが直面している問題の中でも、おそらくもっとも魅惑的なのは「どこかほかのところに知性ある生命体は存在しうるのだろうか？」というものだろう。地球はさして重要でない星の周囲を回転している、取るに足りない惑星なのだから、私たちの方で私たちが宇宙で唯一の知性ある生物だと仮定するのは思い上がりであろう。とはいえ、証拠を手に入れるのは困難だ。

特にやっかいなのは、地球の周辺の世界、つまり太陽系の天体は、高度な生命体には適していないように思われることだ。月はすぐにも除外されてしまうだろう、大気がほとんどないからである。金星もこれよりましというほどでもない。表面の温度が非常に高く、大気のほとんどは二酸化炭素である。大気が非常に希薄で水が極端に不足している火星は、単純な植物なら維持できてもおかしくないのだが、動物の発見は期待できそうもないし、ストーリーテラーたちが描き出す魅力的な火星人の姿も久しく見られなくなった。

無論、これで火星にいると考えられる人々と通信するための素晴らしいアイデアが沸き起こってくるのがやんだわけではない。19世紀初頭、偉大な数学者 Gauss は、シベリアに木を植え字を作ることを提案した。火星人がそれを見て、的確な返事をしてくるかもしれないということだった。この提案に続いて、オーストリアの科学者 Karl Littrow は、サハラ砂漠に三角形の大きな溝を掘り、灯油か何かそういった物質をそこにを入れることを提案した。火をつければ、溝は知性ある生物の存在を示す「燃える三角形」を火星の観察者に見せることになるというのだ。これよりさらに面白いのは、1870年代のフランス人作家 Charles Cros の計画だった。Cros は日光を反射する大きな鏡を立てて、火星の表面にその光を集め、巨大な集光レンズを作りたがった。鏡をゆらし、砂を燃やすだけで火星の砂漠上に文字を書くのは実際的なやり方だと Cros は説明した。Cros は長年にわたってこの計画に関する文書をフランス政府に送りつけたが、公式な関心は寄せられず、非常に失望したのだ。

注

ℓ. 1 ○ face ~ (= 人) 「~に差し迫る」 (= confront ~ (= 人))

cf. A new problem *faced* us. (新たな問題が生じた。)

これに対して人が主語で物が目的語の場合、「~に立ち向かう」の意。

cf. Let's *face* the reality. (現実を受け止めよう。)

○ astronomer 「天文学者」 cf. astronaut (宇宙飛行士)

ℓ. 3 ○ suppose that ~ 「~と推測する、仮定する」

ℓ. 4 ○ obtain ~ 「~を得る」「得る」の意味をもつ動詞には、acquire, attain, earn, gain, get, obtain, win などがある。

- ℓ. 5 ○ body 「天体」
 ○ appear to *do* ≡ seem to *do* : appear は客観的事実について述べて「…のように見える」, seem は自分の判断からして「…のように思われる」という含みがある。
- ℓ. 6 ○ rule ~ out 「~を除外する, 問題外とする」
- ℓ. 9 ○ there seems ~ 「~があるようだ」
- ℓ. 10 ○ Martian *n.* 「火星人」, *adj.* 「火星の, 火星人の」
- ℓ. 12 ○ supposed 「想像上の, 仮定の」
- ℓ. 13 ○ suggest …ing 「… (すること) を提案する」 suggest 名詞 (動名詞) か, suggest that 節 (wh 節・句) で使う。suggest to *do* の語法はない。
- ℓ. 14 ○ follow up ~ 「~の後に続ける, ~にさらに付け加える」
 ○ propose …ing 「「… (すること) を提案する」 propose 名詞 (動名詞) ; that 節 ; to *do* の文型で使える。suggest よりフォーマル度が高い。
- ℓ. 15 ○ fill A with B 「AをBで満たす」
- ℓ. 16 ○ such substance = that sort of substance
 ○ when lit = when the ditches were lit : when 節の主語が主節と同一のため, when 節の「主語 + be 動詞」が省略されている。
cf. When visiting London, I like to travel by bus.
 (ロンドン訪問中はバスで移動するのが好きです。)
- ℓ. 17 ○ mind *n.* 「人」特に優れた頭脳の持ち主を指す。
- ℓ. 22 ○ bombard A with B 「A (人) を B (質問, 嘆願など) で攻めたてる」 bombard の第1義は「爆撃する, 砲撃する」。
 ○ literature 「文献, 論文」

【9】

解答・解説

- (1) I wish I knew French. 「[実際はフランス語を知らない]」のであるから, I wish + 仮定法過去にする。]
- (2) If you tried, you would succeed. 「[実際には君はやらないから, 成功しない]」ということである。したがって, 仮定法過去を用いる。「君はやれば」→「君は挑戦してみれば」と考えて, If you tried とする。「成功するのだが」は「助動詞の過去形 + 動詞の原形」で表現すればよいので, you would succeed となる。]
- (3) He talks as if [though] he knew everything. 「[実際は何でも知っているということはないが]」という意味を含んでいる。「あたかも…であるかのよう」に is as if … または as though … を用いればよい。「何でも知っている」と「話しぶりだ」は同じ時間を表しているため, as if …, as though … の後には仮定法過去が続く。「何でも知っているかのよう」に is as if he knew everything または as though he knew everything となる。「話しぶりだ」→「彼は話す」と考えて, He talks となる。]
- (4) I cannot afford to buy a new car. I wish I were richer. 「[…する余裕がある]」は can afford to *do* である。「新車を買う余裕がない」は I cannot afford to buy a new car.

となる。あるいは, I cannot afford a new car. も可能。「もっと金持ちであればなあ」は「現在のかなわない願望」であるので, I wish + 仮定法過去 の形式を用いればよい。I wish I *were* richer となる。]

(5) If I had been free yesterday, I would have helped you. [「実際には昨日忙しかったので, 手伝ってあげなかった」という意味が含まれている。仮定法過去完了にすればよい。]

4章 接続詞・否定

要点

■ 確認問題 1

解答

一歩誤れば、彼らはともに崖っぷちの向こう側へ落ちてしまうことだろう。

■ 確認問題 2

解答

- (1) 彼らが離婚をして私は非常にがっかりした。
- (2) もし今夜雨になったらどうしようか。
- (3) 一度決心したら、その目標を貫くべきだ。

■ 確認問題 3

解答

人々は積極的に幸福を求めるが、それが見つかることはめったにない。

■ 確認問題 4

解答

あなたはあの山を見ると必ずその美しさに心を打たれる。

■ 確認問題 5

解答

私は聖書の上に手を乗せ、ただ真実だけを話すと誓う。

問題

【1】

解答

- (1) イ (2) ア (3) ウ (4) エ (5) オ

解説

- (1) 「明日返してくれるのであれば、僕の自転車を貸してあげてもいいよ。」
- can 「許可」を表す。
 - bring ~ back 「~を返却する、持って帰る」
 - as long as ~ 「~する限り、~するのであれば」〔制限〕を表す。
cf. As long as I live, you shall want for nothing.
(私の目の黒いうちは、お前に不自由はさせないよ。)[この場合は、「期限」を表している。]
- (2) 「お金を取り戻すまで、ここにいるよ。」
- get ~ back 「~を取り戻す」
 - until ... 「...するまでずっと」
- (3) 「通路が暗かったので、自分がどの辺にいるのかわからなかった。」
- passage 「通路、廊下、航路、(文の)一節〔可算名詞〕、通行、(時の)流れ」
e.g. the passage of time (時の経過)
 - ~, so that ... 「~その結果、...; ~それで、...」〔結果〕を表す。「~の結果生じるのが、...である」という意味。
cf. These men risk their lives so that we may live more safely.
(この人々は我々がより安全に生活できるように、命を懸けているのだ。)[「目的」を表すことに注意。]
- (4) 「ジョーは背が低くて色黒だったが、妹は正反対だった。」
- ~, while ... 「~だが(一方では) ...」〔対照〕を強調するために用いられる while。この while が文頭に置かれると、通例 although の意味になる。
Ex. While I sympathize with your point of view, I cannot accept it.
(君の意見には同感であるが、そのまま受け入れることはできない。)
 - (the) opposite 「逆のもの(こと)、正反対のもの(こと)」
- (5) 「ある本が有名な作家によって書かれているからといって、その本が必ずしも良書だとは限らない。」
- not always ... 「必ずしも〔いつも〕...であるとは限らない」
 - not ~ just [only; simply] because ... 「単に...だからといって~ない」

【2】

解答

- (1) (e) (2) (a) (3) (c) (4) (j) (5) (f)
(6) (b) (7) (g) (8) (d) (9) (i) (10) (h)

解説

- (1) 「彼はとても意地悪だったが、友達が多かった。」
○ bad-tempered 「意地の悪い、機嫌の悪い」
- (2) 「食後必ず歯を磨きなさい。」
○ brush *one's* teeth 「歯を磨く」〔teeth の単数形は tooth〕
cf. I must *brush up* my English before I go to New York.
(ニューヨークに行く前に、英語に磨きをかけなくてはいけない。)
○ meal 「(1度の) 食事」
- (3) 「もう1度そんなことをしたら、後悔するよ。」
- (4) 「それをやめなければ、困ったことになるよ。」
- (5) 「彼女の家族を知っているので、できる限りのことを彼女にしてあげた。」
○ what I could do 「私にできることのすべて」 (= all that I could do)
- (6) 「もう一度そんな口のきき方をしてみろ。そうしたら、ぶん殴ってやる。」
○ 命令文 ~, and … 「~しなさい。そうすれば、…」
- (7) 「2度とそんなことをするなよ。さもないと、ぶん殴るぞ。」
○ 命令文 ~, or … 「~しなさい。さもないと、…」
- (8) 「彼の短気ときたらひどいものだが、皆彼のことが好きだった。」
○ terrible 「ひどい、恐ろしい、ものすごい」
- (9) 「リズは、先週母が家に戻ってきました、と私に説明してくれた。」
○ explain to + 人 + that ~ 「人に~を説明する」 > explanation *n.* 「説明」
- (10) 「僕は彼女のことが気の毒だった。だから、助けようとしたんだ。」
○ be sorry for ~ 「~を気の毒に思う、かわいそうに思う」
○ A, so B. 「Aである。だから、Bである。」〔Bの結果を導き出す根拠となるのが、Aの節である。〕

【3】

解答

- (1) Neither Arthur nor Betty was in my class today.
(2) We can either fix dinner for them here or take them to a restaurant.
(3) She wants to buy either a Honda or a Toyota.
(4) Neither the library nor the bookstore has the book I need.

解説

(1) 「アーサーもベティーも今日は私の授業には出席していなかった。」

Arthur	}	be <u>not</u> in my class today
Betty		

Arthur と Betty の 2 人がいて、「Arthur は今日、私の授業に出席していない」「Betty は今日、私の授業に出席していない」。つまり、「Arthur も Betty も 2 人とも出席していない」ので、両者を否定する表現、neither ~ nor … を用いる。

(2) 「ここで彼らに食事を準備してあげてもいいし、レストランに連れて行ってあげてもいい。」

We can	⎧	fix dinner for them here
		or → 二者択一
		take them to a restaurant

ポイントは or。or には「~か…かどちらか」の意味、つまり二者択一の意味がある。我々には選択肢として、「ここで彼らに食事の準備をすること」「彼らをレストランに連れていくこと」があり、どちらか一方を選択することが可能なのである。

(3) 「彼女はホンダかトヨタの車を買いたがっている。」

She wants to buy	⎧	a Honda
		or → 二者択一
		a Toyota

a Honda, a Toyota という不定冠詞+固有名詞は、ここでは「~の製品、商品」を表す。つまり、「ホンダの車」、「トヨタの車」を表す。

(4) 「図書館にも書店にも僕が必要としている本がないんだ。」

The library	}	do <u>not</u> have the book I need
the bookstore		

両者を否定するには、neither ~ nor … を用いる。ちなみに、both ~ and … を用いると、問題文とは意味がずれてしまう。

cf. Both the library and the bookstore do not have the book I need.

「both ~ and … + 否定語」は、部分否定の表現で、「~と…の両方が~というわけではない」。この文の意味は、「図書館と書店の両方に必要な本があるというわけではない」、つまり、「図書館か書店のどちらかにある」となる。

○ the book I need [目的格関係代名詞 which が省略されている。→ the book which I need]

【4】

解答

- (1) 自分に対する評価は十分ではない、と誰もが考える傾向にある。
- (2) そう考えている人は誰でも、うぬぼれが強いは限らない。
- (3) まだ行動を起こす必要はないという私の見解は、ここにいる人の大半と同じである。

(4) 主として困っているのは、この仕事の適任者が1人もいないことだ。

解説

(1) ○ Everyone tends to think [that they are not sufficiently appreciated].

V O

[think が他動詞であるので、that ~ がこの目的語となる。that に続く部分が文として成立している。しかし、he is not sufficiently appreciated が目的語として機能するためには、名詞に変換する必要がある。したがって、文を名詞節に変換する接続詞の that が用いられている。]

- appreciate ~ 「～を高く評価する、～の真価を認める」
- tend to do 「…する傾向がある、…しがちである」 > tendency *n.* 「傾向、風潮」

(2) ○ Everyone that thinks so is ~.

[(1) と同じように考えて、that に続く部分が文として成立するかどうかを確かめると thinks so が残る。これだけでは文として成立しない。thinks so の主語が必要である。主語として機能するのは、that。したがって、この that は everyone を先行詞とする関係代名詞で、that が導く節は everyone を修飾する形容詞節。]

- everyone ~ not 「誰もが～とは限らない」 [部分否定を表す。]
- not necessarily 「必ずしも～とは限らない」 [部分否定を表す。]
- conceited 「うぬぼれの強い、思い上がった」 < conceit *n.* 「うぬぼれ、自負心」

(3) [that に続く no action need be taken yet が文として成立している。これも (1) と同じように、文を名詞に変換する接続詞である。したがって、

My opinion that no action need be taken yet is shared by most of us here.

名詞 名詞

となり、主語の位置に名詞が2つ並んでいることがわかる。同じ格の名詞を並べて用いると、2つの名詞は同格の関係になる。つまり、「私の見解」に「まだ行動を起こす必要はないということ」によって、説明を加えているのである。]

- take action 「行動を起こす、行動をとる」
- not ~ yet 「まだ～ではない」
- share ~ 「～を互いに分かち合う、共有する」

(4) ○ … lies in the fact that we have nobody properly qualified for this work.

S' V' O'

[properly qualified for this work は nobody を修飾するので、that に続く部分は S'V'O' となり、文として成立している。これを名詞に変換するのが、接続詞の that である。全体の構造は、

The main difficulty lies in the fact that ~.

名詞 名詞

となる。したがって、この that 節は直前の the fact と同格の関係にある。]

- lie in ~ 「(原因などが) ~にある」
- be qualified for ~ 「～をする資格がある、～に適任である」

【5】

解答例

- (1) Stay here until I return. [Stay here till I come back.]
- (2) The bus was so crowded that I had to stand all the way. [The bus was so crowded that I had to keep standing.]
- (3) You were out when I called you.

解説

- (1) ○ 「戻ってくる」 come back
○ 「～まで」 → 「～までずっと」: 「継続」を表す until [till]
○ 「ここにいる」 stay here
- (2) ○ 「混んでいる」 crowded
○ 「とても～なので…」 結果を表す構文 so ~ that …
○ 「ずっと立っている」 stand all the way あるいは「立ち続ける」 keep standing
- (3) ○ 「～に電話する」 call, telephone, phone, give ~ a call
○ 「いない」 → 「家にいなかった, 外出中」 you were out, you were not at home

【6】

解答・解説

- (1) anything
○ anything but ~ 「少しも～でない, ～どころでない」 (= He is *not* a wise man *at all*.)
- (2) Avoid [「～を壊さないで」という否定表現がポイント。問われているのは, 「a で始まる動詞で, 否定の意味を含み, 動名詞を目的語にとれる動詞は何か」ということ。それほど難解な問題ではないが, 普段から頭を使って文法問題に取り組んでいないと難しい。確かに文法問題の形式は, 本問のような空所補充が多いが, 空所を丸暗記するのではなく, 意味を考えて取り組むこと。]
- (3) either [「2個のものうち, 1個を選ぶ」という意味を持つのは, either ~ or … である。]
cf. He can speak *either* French *or* Spanish.
(彼は, フランス語かスペイン語かどちらか話せます。)
両方とも否定する場合, neither ~ nor …, または, 否定語 + (either) ~ or … を用いる。
cf. I can speak *neither* French *nor* Spanish. [= I cannot speak (either) French or Spanish.]
- (4) above [ここでの above は, too good or too honest to do something の意味である。]
cf. She is *above* telling lies. (彼女は正直な人間だから, 嘘などつかない (つけない)。)
- (5) the last [= the last thing [person] = one that you do not expect at all = one that you do not want at all]

【7】

解答

「全訳」下線部参照。

全訳

私はもはや日本人を他の国民と比較しようとは思わない。なぜなら私は日本人の独自性をあまりにも意識するようになってきているからである。このことは日本人が他の国民と何も共通点がないということの意味しているのではない。日本人は多くの他の国民と多くの特徴を共有しているが、その特定の組み合わせが比類なく日本的である。しかしながら、日本人とアメリカ人を比較する場合、その違いを誇張するのは容易である。(1)ジャーナリストの中には、日本人とアメリカ人ほど似ていない2つの国民はないということを我々に信じさせようとする者もいるかもしれない。(2)しかし、私にはたくさんの親しい日本人の友達がいるという理由だけからしても、このことは正しくないということがわかるし、そして私は、アメリカ人やその他のいかなる国民でも理解するのに苦労しないのと同様に、彼らを理解するのに苦労しない。しかし、私は数年に渡って私が観察したそれぞれの国民のいくつかの目立つ特徴を指摘してみよう。

私が長い間気づいている日本人の1つの面は、彼らが外国人に理解されることを望めないと確信していることである。この態度は多くの面に現れている。(3)例えば、たいていの日本人は、日本人のように見えない人は日本語を話すことはできないだろう、まして読んだり書いたりすることはできないだろうと勝手に思い込んでいる。

解説

(1) Some journalists would have us believe that no two peoples are less alike. [than Japanese and Americans を alike の後ろに補って考える。]

《直訳》「何人かのジャーナリストは、日本人とアメリカ人ほど似ていないいかなる2つの国民もあり得ないということを我々に信じさせるかもしれない。」つまり、「日本人とアメリカ人が一番似ていない」ということ。

- would 「…かもしれない」〔現在時における控えめな推量を表す。〕
- have ~ 原形不定詞「～に…させる」〔have は使役動詞〕
- no [ここでの no は語修飾の文否定である。]

cf. ①文否定〔語修飾の文否定。文全体を否定している。〕

No girl can answer it. 「それに答えられる少女はいない。」

②語否定〔語修飾の語否定。否定の働きが修飾している語句内にとどまる。〕

No news is good news. 「便りのないのはよい便り。」

(2) I know this is untrue, if only because I have many close Japanese friends,

- this = no two peoples are less alike (than Japanese and Americans)
- untrue 「事実と反する、うその」
- if only 「①(たとえ) …だけであるとしても ②ただ…でさえあれば」

cf. He will succeed if only he does his best.

(彼は最善を尽くしさえすれば、成功するでしょう。)

- close 「親密な、親しい」

- and I experience no more difficulty in understanding them than in understanding Americans or any other people.
 - A is no more B than C is D. [本問の場合, A = C] 「CがDでないのと同様に AはBでない」
 - them = Japanese
 - any other 単数名詞「その他のいかなる～」
- (3) For example, most Japanese assume that a person who does not look Japanese will be unable to speak the Japanese language, much less to read or write it.
- for example 「例えば」
 - assume that ~ 「(根拠がないのに) ~であると思う, ~を想定する」
 - will be unable to do 「…することができないだろう」
 - 否定文, much [still] less ~ 「まして (なおさら) ~ない」

注

- ℓ. 1 ○ no longer 「もはや…ない」
 - think of ~ 「~のことを (よく) 考える」
 - compare ~ to [with] … 「~を…と比較する」
 - peoples (複数形) 「民族, 国民」
- ℓ. 2 ○ individuality 「個性, 人格, 個人的特性」
 - does not mean that ~ 「~ということの意味しているのではない」
 - have ~ in common with … 「…と~を共通に持つ」
- ℓ. 3 ○ share ~ with … 「①~を…と分ける ②~を…と共有する」
- ℓ. 4 ○ combination 「結合, 組み合わせ」 < combine
 - uniquely 「比類なく, 特有の形〔方法〕で」 < unique
- ℓ. 8 ○ point out ~ 「~を指摘する」
- ℓ. 9 ○ which [some striking features of each people を先行詞とする。]
 - over the years 「何年〔数年〕にも渡って」
- ℓ. 10 ○ One aspect of the Japanese which I have long been aware of is their conviction that they cannot hope to be understood by foreigners. [that 節以下は their conviction と同格の名詞節。]
 - aspect 「①外観, 形勢, 局面 ②向き, 方位」
 - conviction that ~ 「~という確信」 [that は「同格」の名詞節を導く接続詞]
- ℓ. 11 ○ itself [再帰代名詞の再帰用法]
 - in many ways 「多くの点で」 (= in many respects)

【8】

解答

(1) though (2) because of

全訳

平和への願いはほとんど全ての人類にとって共通のものである。しかしながら、歴史は、人々や国々の間の意見の相違や誤解のために恒久的平和を達成するのは困難であるということを示してきた。

注

- desire for ~ 「～への願望」
- be common to ~ 「～に共通している」
- lasting peace 「恒久的平和」
- achieve ~ 「～を達成する」
- disagreement 「意見の相違点」
- misunderstanding 「誤解」

E1TS/E1T
高1 難関大英語 S
高1 難関大英語



会員番号	
------	--

氏名	
----	--

不許複製